学校番号	２０２

令和８年度 数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	新編　数学Ⅰ Flex（実教出版）						
副教材等	ラウンドノート　数学Ⅰ（実教出版） データの分析　短期学習ノート　新訂版（実教出版）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は主に，ノートやプリントを用いて行います。それらをまとめるためのファイルと、授業で使うノートを用意してください。
・授業は「解説を聞く→解説を基に自分たちで問題を解く→答え合わせをする」という流れで行います。問題を解く際には，自ら考え、周りの人と協働で考える活動をします。
・家庭学習では，問題集の問題をまず自分で解いてみよう。途中式や考え方も書いてください。その後，必ず答え合わせをしてください。間違った問題は放っておくのではなく、必ずノートなどにやり直しをしましょう。自力で解けるまで、何度でもやり直してください。
・考査ごとを目安に問題集などの課題を課します。しっかり学習して、提出してください。

２ 学習の到達目標

数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基礎的な知識や技能を習得します。また、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにします。さらに、それらを活用する態度を身に付けることを目標とします。

（１） 数と式、図形と計量、２次関数、データの分析についての基本的な概念や原理や法則を理解し、事象を数学的に捉え、表現、処理する技能を身に付ける。
（２） 数式、グラフ、図形などの関係を理解し、事象を数学的な考え方で分析したり、表現する。
（３） 数学的な考え方のよさに気づき、自らの思考過程を振り返りながら、粘り強く問題解決に取り組む。

３ 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。また事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数と式、図形と計量、２次関数及びデータの分析における数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析の考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	第一章 数と式	式の計算	a:乗法公式や因数分解の公式の意味を理解している。いろいろな公式などを利用して、複雑な式を簡単な式に整理できることを理解している。 b:乗法公式や因数分解の公式などを目的に応じて処理することができる見通しを持って式を展開し、因数分解することができる。 c:式の展開や因数分解に関心をもち目的に応じて式を変形しようとする。複雑な式の展開やいろいろな因数分解では，置き換えや式の変形などを利用しようとする。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
		実数	a:数を実数まで拡張することの意義を理解し実数が直線上の点と１対１に対応していることを理解できる。 b:有理数を小数で表すことによって有理数の意味を考察することができ分母に根号を含む式において、分母を有理化することができる。 c:実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもつ。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
		1 次不等式	a:不等式の性質を理解し不等式の解の意味や不等式を解くことができる b: 不等式の性質を基にして、1 次不等式を解くことができ連立不等式の解を数直線上に表すことができる。 c: 数量の関係を不等式で表し 1 次不等式を活用し具体的な事象の考察に 1 次不等式を活用しようとする。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
	集合と論証	集合と論証	a:集合の表し方を理解し，条件を表したりド・モルガンの法則の意味を理解し，問題解決に利用することができる。必要条件・十分条件などや逆・裏・対偶などの用語を理解し、そのための知識を身に付けている。 b: 命題 p⇒q が真であることが、条件を満たす集合の包含関係と対応しているととらえることができる。「かつ」、「または」、「でない」などの言葉が集合の「∪」、「∩」、「￣」と対応していることを考察することができる。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	

二学期	二次関数	2 次関数とそのグラフ	a：2 次関数の平方完成の形に変形することができグラフの頂点や軸の方程式について基礎的な知識を身に付けて定義域，値域について理解できる。 b：グラフの頂点の座標と軸の方程式を求めることができる。与えられた定義域から頂点を考慮して最大値・最小値を求めることを理解できる。 c：２次関数の平方完成に変形する計算に意欲をもって取り組み 2 つの変量を式やグラフに表すことに関心をもつ	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
		2 次方程式と 2 次不等式	a：2 次関数のグラフと x 軸との共有点の個数は、判別式の符号によって分類されることを理解でき 2 次不等式の解の意味を 2 次関数のグラフとの関係から理解して、2 次不等式を解くことができる。 b：2 次関数のグラフと x 軸との共有点の x 座標は、2 次方程式の実数解であることを理解し、2 次方程式の解の個数や 2 次不等式の解を求めることができる。共有点の個数を判別式を計算することにより、その符号で判断できる c：2 次関数のグラフと x 軸との位置関係について調べ 2 次不等式を解くことができる。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
三学期	図形と計量	三角比	a：三角比の相互関係について理解し基礎的な知識を身に付け 30°・45°・60°の三角比を直角三角形の辺の比から求めることができる。 b：三角比の相互関係を用いて、与えられた三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。座標平面上の半円を用いて、鈍角まで拡張した三角比について考察することができる。 c:三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心を持ち、事象の考察に活用できる。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート

		三角比と図形の計量	a: 三角比を用いて、三角形の面積を表す過程や空間図形の計量の考察をすることができる。 b: 三角比や正弦定理・余弦定理などを用いて平面図形や空間図形を計量することができ三角形の残りの要素を求めることができる。 c: 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさを調べることができ三角比を用いて三角形の面積や空間図形の計量に活用できる。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
	データの分析	データの整理	a: 整理した表，図，値などの意味を理解し、そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。四分位数，四分位範囲などの用語や意味を理解できる。 b: 箱ひげ図を用いてデータの散らばりを表すことができる。 c: データから適切な代表値を得て散らばり具合を整理し全体の傾向をつかもうとする。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート
		データの分析	a: 分散・標準偏差などの用語や散布図および相関係数の意味を理解し仮説検定の考え方を理解できる。 b: ２つの変量の相関係数を求めることができる。四分位数から、外れ値になり得る値の範囲を求めることができる。整理した表・図・値などの意味を理解し、そのデータの特性や法則性を的確にとらえることができる。 c: データから適切な代表値を得て、散らばり具合を整理し全体の傾向をつかむことができる。	定期考査 問題集ノート	定期考査 問題集ノート	観察ノート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度